

LESと同様に、WebLESの評価に検診情報を評価に取り入れるためには、個人が職場検診などで受け取った結果を入力してもらう方法を検討したい。また、診療記録をICカードに記憶し個人が保持する試みは各地で行われているが、これが一般的になったときは、生活習慣評価時にICカードデータを読み込み、評価に活用することも可能であろう。今回の調査でセキュリティに対する意識について調査したが、個人情報インターネットで送受信することには約70%の回答者が不安を感じており、暗号化が必要と回答している。検診データを取り入れる場合は、サーバーとの送受信のセキュリティ対策として、暗号化技術を検討し、取り入れるようにしたい。

このような課題を国内外からのデータ収集を継続し、生活習慣の地域特性を明らかにするとともに、成人病の罹患状況データ等との比較を通じて成人病と生活習慣の地域特性を明らかにしていきたい。

VI 結論

インターネットを利用した生活習慣評価システムを開発した。海外を含む広範囲に生活習慣評価を提供するとともに、短期間、低コストで広範囲のデータを収集することができた。回答者はインターネット利用者の構成に影響されるが、調査の実施サイトの選択や調査協力への呼びかけの方法により、バイアスを解消することが可能であり、今後の疫学調査手段として有用と考えられる。